



三稜会会報

津島高校同窓会



平成29年8月1日 第66号

発行 三稜会
(津島高校同窓会)
事務局(津島高校内)
〒496-0853
津島市宮川町3-80
電話 0567-28-4158
発行人 横井 義一

母校に感謝し、 後輩への支援を

三稜会会長

横井 義一



津島高校の創立は西暦一九〇〇年です。三年後の夏、東京オリンピックとパリオリンピックの閉幕後に、母校の創立一二〇周年記念行事が行われます。この五月の理事会・幹事会にてその人事が確立し、組織づくりが始まりました。創立一二〇周年記念事業の成果として、次の三点を挙げることが出来ます。

①学習室・興學館の新設寄贈により、日常の授業や個人学習に大変重宝されていることです。学校を訪れるたびに、在校生から「ありがとうございます」と言葉かけられると、本当に良かった！と思えます。

②懸賞論文・稲葉真弓賞は西尾張地区の全高校十四校を募集対象として設立され、応募校数は第五回の八校から第六回は九校に、第七回目の本年は過去最高の十校へと着実に増え、応募実績のある学校は十三校になりました。最近は五〇六〇〇作品の応募があり、各校の取り組みに力が入ってきたことが感じられ、今年最優秀賞と優秀賞は僅差の競り合いました。将来の日本を背負う高校生に、「考えて書く力を養ってもらいたい」という願いから創設しましたが、最近、大学入試に記述式を取り入れる方向が打ち出さ

れ、まさに時代を先読みした制度として認知されてきたと自負しています。今後も西尾張地区の伝統として発展出来るよう、努力していきたいと思えます。協賛・後援いただいている各社には心より感謝いたします。新しく協賛会社に加わっていただけるお仲間を募っております。よろしくお願い致します。

母校にこうした制度が出来、ご自身がかかわることが出来ることを稲葉さんは本当に喜んでおられました。それだけに急逝はショックでした。気さくに接していただいた厳正な中にも楽しい審査会でした。それがご縁で、貴重なご遺品を母校へ寄贈いただけ、興學館内で公開し、未永く在校生へエールを送っていただけるようにできたことは望外の喜びです。高校入学と同時に書き始められた、詩などが収められている大学ノート作品を、少しずつでも公開していきたいと思えます。(会報別冊をご参照ください。)

③総会を津島市内に移しました。ホームカミングデイと称し、卒業後に母校を訪問する機会にしてほしい狙いからです。これは、参加された会員に飲ばれたと思えます。と同時に、名古屋市内に戻してほしいとの意見も根強くあり、総会への出席者が減少したのも事実です。そこで、ホームカミングデイは新しいかたちで継続し、「節目の年は名古屋で総会を」との案が浮上してきています。

九月の新学期に行われている学校祭では、生徒の発表等の文化祭や体育祭が行われており、そこへ三稜会としても参加できる仕組みを創れないものかと思っています。ご意見をお寄せください。

今年3月 登録有形文化財に登録された本校正門(大正12年)



三稜会の活動内容は時代とともに変化しますが、その精神は「母校に感謝し、後輩への支援を」を貫くものでありたいと思います。皆様のご協力のもと、より充実した一二〇周年記念事業を築いていくではありませんか。微力ながら一二〇周年から一二〇周年への中継ぎの五年間を、皆様に支えていただけて何とか務めさせていただくことが出来ました。厚くお礼申し上げます。

三稜会の皆様におかれましては、御健勝で御活躍のこととお慶び申し上げます。日頃は、本校の教育活動に御支援、御協力を賜り、感謝申し上げます。昨年度は、大型プリンター及び送風機を寄贈いただき、ありがとうございました。大切に使用させていただきます。

さて、昨年、尾張津島天王祭の車楽（だんじり）舟行事がユネスコの無形文化遺産に登録され地元で大きな話題を呼びました。津島市ではこのことも含め、現在地域の歴史や文化の発信を始めとする観光化を推進しています。

本校においても、本年度生徒たちが郷土の歴史や文化を学び、海外へ発信する取組を行っております。国際理解コースの一年生が、津島ガイドボランティア会長の大橋忠彦氏（本校十四回生）より、天王祭を中心とした海部津島地方の歴史や文化に関する講義を頂き、二次次に語学研修で訪れるオーストラリアの高校生に発表したり、外国人観光者と交流する試みです。

私も、大橋氏の初回の講義を生徒とともに受け、この地域の豊かな歴史や文化を新鮮な思いで再認識することができました。生徒たちも、歴史ある郷土に関心を持ち、誇りを抱くことができたのではないかと思います。



「地方創生を担う人材育成」

校長 服部 隆 宏

また、本年、本校正門の門柱が国の登録有形文化財に登録されました。旧講堂とともに大正十二年に建造され、日本の建造物に鉄筋コンクリートが使われ始めた時期のものとして、貴重なものだそうです。他にも、校門付近の松並木や下グラウンドの桜並木、津島市の天然記念物になっている榎の大木（野球部のバックネット付近）など、本校には、この地域とともに歩んできた歴史の足跡や観光資源が多く残されています。

現在、我が国では、

大都市への人口集中と地方の過疎化、それがもたらす人口減少や、生産力の低下に歯止めをかける対策が喫緊の課題とされています。地方が元気になる、若者が地方に残り活躍できる環境を創出することが、その一つの打開策といわれています。

これまで本校は、大変多くの卒業生の皆様方の御活躍により、この地域の発展に大きく貢献してまいりました。今後も、本校生徒が、この地域や母校に対する愛着と誇りを抱き、その発展の担い手として活躍して欲しいと願っています。教職員一同、その実現のため、励んでいく所存です。三稜会の皆様には、今後も一層の御支援をお願い申し上げます。



三稜会幹事学年を終えて



愛知県立津島高等学校三稜会懇親会

「卒業三十年の節目に母校への恩返しと学年としての責任を果たす」。その思いを共有して、私ども三十九回生は、幹事学年の準備をスタートしました。昨年度、三稜会の総会・懇親会の幹事という大役を無事に終えることができました。多くの会員の皆様のご指導、ご支援の賜物と心より御礼申し上げます。また、高校の先生方、生徒の皆様にも運営面で多大なるご協力をいただき、まことにありがとうございます。

大先輩から現役生に至るまで、長い

縦のつながりに伝統を感じるとともに、幹事の仕事を通じ同学年という横の絆が深まったことで、改めて津島高校の卒業生で良かったと実感しています。ささやかではございますが、記念事業として、大型のプリンターと送風機を贈呈させていただきました。学校生活の一助となれば幸いです。最後にになりますが、母校ならびに三稜会のますますのご発展と、会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念いたします。御礼の挨拶とさせていただきます。

高校三十九回生代表 服部 昭弘

平成29年度 総 会

平成二十九年度の三稜会
総会並びに合同懇親会は、
私たち四十回生が幹事学年
として運営させていただき
ます。

母校卒業五十年をお迎え
になる二十回生の皆様、誠
におめでとうございます。

本年も昨年同様、総会並
びにホームカミングデーは
母校三稜館において、

合同懇親会は津島市
文化会館にてそれぞ
れ開催させていただ
きます。ぜひこの機
会に母校を訪れてい
ただきたいと思いま
す。また皆様には会
場の移動等ご不便を
おかけいたしますが、
何卒ご理解ご協力の
程よろしくお願い申
し上げます。

卒業後三十年目に
幹事学年として大役
を務めさせていただ
くことは、素晴らしい「伝
統」だと思っています。私の父
も卒業生であり、幹事学年
を機会に当時の同級生が再
び集まり、在学時以上に絆
を深め楽しく歳を重ねてい
く姿に、自分たちもそのよ
うになれるのだろうかと思
いをかき上げていたことを思
い出します。しかし、数年前

総 会 に 向 け て

高校40回生代表幹事 日 比 康 詞

より準備を始め、当時話を
したことすらなかった同級
生と、同じ時を共有してい
ただけで話も弾み、今後の
人生にかけがえのない仲間
を得ていると今は実感して
います。また、社会人とな
り津島高校の卒業生である
と聞きつけた先輩方からは
「君も三中出身か」と可愛
がっていただいたこと

も、三稜の精神にある
「知仁勇」が脈々と引
き継がれている証拠に
違いがないと思うととも
に、津島高校の卒業生
であることがうれしく、
誇らしく思えました。
今後は脈々と受け継
がれてきたものを、次
の世代に引き継いでい
くことが、三稜会とし
て母校の更なる発展に
必要な使命のひとつで
あると痛感しています。

当日は幹事一丸とな
り楽しい時間のお手伝い
をさせていただきますので、
多くの会員の皆様方のご出
席を心待ちにしております。
最後になりますが、母校
のますますのご発展と、会
員の皆様の更なるご活躍を
祈念し、幹事学年代表の挨拶
とさせていただきます。

平成29年度 三稜会総会次第

【総会】

日時 平成二十九年九月二十四日(日)
受付 九時～ 総会 十時三十分
場所 津島高等学校三稜館

表彰の部

一 開会の言葉 幹事学年 工藤 裕子 (敬称略)
二 第七回稲葉真弓賞(三稜会懸賞論文)各入賞者表彰式
審査委員長の挨拶 講評

総会の部

三 幹事学年代表挨拶 幹事学年代表 日比 康詞
四 物故者への黙祷
五 会長挨拶 三稜会会長 横井 義一
六 津島高校勤続十年表彰 三稜会会長 横井 義一
七 諸岡教諭横井教諭・石田教諭 議長(幹事学年) 松村 純宏
八 議長選出・挨拶 議長(幹事学年) 松村 純宏
九 議事 議事 伊藤 令一

十 閉会の言葉 津島高校音楽部
○記念演奏(二十分)
平成29年度役員選出
平成28年度事業報告・平成29年度事業計画の報告
平成28年度決算報告・平成29年度予算の報告
幹事学年 伊藤 令一

三稜会懇親会

日時 平成二十九年九月二十四日(日)十三時
懇親会受付 十二時～ (於 津島市文化会館)
○記念写真撮影

卒業後五十年会員(高二十回生・定十七回生)
十二時四十五分より

○合同懇親会

一 開会の言葉
二 会長挨拶
三 乾杯
四 卒業50周年会員表彰式
五 校歌斉唱
六 『三稜の鍵』継承式
七 次年度幹事学年
八 (41回生)代表挨拶
九 万歳三唱
閉会の言葉

当日は送迎バスがあります。

津島駅→津島高校
9:00発
10:00発
津島高校→津島市文化会館
11:50発
12:30発
津島市文化会館→津島駅
なし

平成29年度 三稜会役員等(案)

相談役

○岡田 貞雄 高4
○後藤 秀彦 高6
○田中 修一 高13
○千賀 勝一 高14
○渡辺 義一 高15
○横井 貢 高20
○横井 義一 高27

顧問

○松岡 貞夫 高12
○佐藤 忍 高17
○服部 隆宏 高29
○北角 浩一 高32

会長

○服部 隆宏 高29
○北角 浩一 高32

副会長

○水谷 正照 高20
○東海 広光 高21
○鈴木 睦 高23
○長谷川 実 高29
○神田 昭雄 高32

常任理事

○大島 静子 高19
○片岡 博 高20
○寺田 道男 高24
○青山 道男 高24

事務局

○加藤 明 (教頭)
○平井 章博 (書記)
○立松 秀樹 (会計)

事務局長

○黒澤 康敏 高34
○村松 佳代子 高36
○星野 孝之 高36
○平野 和枝 高36
○山田 真人 高53
○西川 原穂乃花 高65

三稜会校内事務局

○諸戸 義巳 高27
○山田 潤 高27
○牛田 正之 高28
○三好 裕 高31
○小笠原 正士 高32

三稜会校務局

○小笠原 正士 高32

平成29年度 三稜会事業計画(案)

- 第1回三稜会理事会・幹事会 平成29年5月27日(土)
 - 事業報告
 - 事業計画
 - 会計(三稜会・三稜育英会)報告 同監査報告
 - 予算案
 - 役員改選
 - 総会に関する事(幹事学年40回生)
 - その他
- 校内事務局打ち合わせ 平成29年4月
- 三稜会会報(第66号)の発刊 平成29年7月予定
- 平成28年度稲葉真弓賞(三稜会懸賞論文)選考会 平成29年5月20日(土)
- 平成29年度稲葉真弓賞(三稜会懸賞論文)募集 10月要項配布予定(例年、題は幹事学年が決めます)
- 平成29年度総会・懇親会 (幹事学年: 高校全日制40回生・定時制37回生)
 - 総会・ホームカミングデー: 平成29年9月24日(日) 10時半より(会場: 津島高校三稜館)
 - 役員改選
 - 津島高等学校勤続十年表彰 (諸岡・石田・横井教諭) 3名
 - 平成28年度稲葉真弓賞(三稜会懸賞論文)表彰
 - 平成28年度事業報告・平成29年度事業計画の報告
 - 平成28年度決算報告・平成29年度予算の報告
 - 懇親会: 総会当日午後 受付12:00 開始13:00 (会場: 津島市文化会館)
- 第2回三稜会理事会・幹事会 平成30年2月予定
- 三稜会入会式(全日制第70回生)平成30年2月28日(水) 卒業証書授与式 3月1日(木) (全日制第70回生・定時制第67回生)

平成28年度 三稜会事業報告

- 第1回三稜会理事会・幹事会 平成28年5月28日(土)
 - 事業報告
 - 事業計画
 - 会計(三稜会・三稜育英会)報告 同監査報告
 - 予算案
 - 役員改選
 - 総会に関する事(幹事学年39回生)
 - その他
- 校内事務局打ち合わせ 平成28年4月
- 三稜会会報(第65号)の発刊 平成28年8月1日発刊
- 平成27年度稲葉真弓賞(三稜会懸賞論文)選考会 平成28年5月21日(土)
- 平成28年度稲葉真弓賞(三稜会懸賞論文)募集 10月要項配布 題「正義」
- 平成28年度総会・懇親会 (幹事学年: 高校全日制39回生・定時制36回生)
 - 総会・ホームカミングデー: 平成28年9月25日(日) 10時半より(会場: 津島高校三稜館)
 - 規約改正・役員改選・学年幹事への案内状
 - 津島高等学校勤続十年表彰 (黒澤・神谷・滝川教諭) 3名
 - 平成27年度稲葉真弓賞(三稜会懸賞論文)表彰
 - 平成27年度事業報告・平成28年度事業計画の報告
 - 平成27年度決算報告・平成28年度予算の報告
 - 懇親会: 総会当日午後 受付12:00 開始13:00 (会場: 津島市文化会館)
 - 卒50年会員表彰(高19回・定16回)
- 第2回三稜会理事会・幹事会 平成29年2月4日(土)
- 三稜会入会式(全日制第69回生)平成29年2月28日(火) 卒業証書授与式 3月1日(水) (全日制第69回生・定時制第66回生)
- 名古屋市「文化のみち 二葉館」にて「稲葉真弓展」開催 10月13日～11月17日

平成28年度 三稜会(一般会計)収支決算書

自平成28年4月1日
至平成29年3月31日

収入総額	1,855,028 円
支出総額	1,834,435 円
差引残額	20,593 円 翌年度への繰越額

収入の部

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	29 年 度 予 算 額
入 会 金 収 入	1,690,000	1,855,000	165,000	1,855,000
繰 越 金 よ り	0	0	0	0
そ の 他 の 収 入	100	28	△ 72	100
合 計	1,690,100	1,855,028	164,928	1,855,100

支出の部

会 報 費	1,000,000	1,034,795	△ 34,795	1,150,000
慶 弔 費	50,000	0	50,000	50,000
生 徒 記 念 品 費	100,000	80,136	19,864	100,000
会 議 費	60,000	26,867	33,133	60,000
事 務 費	400,000	118,637	281,363	400,000
三稜会総会準備金(総会費)	0	282,880	△ 282,880	0
三稜会総会準備金(会場費)	0	217,120	△ 217,120	0
そ の 他 の 支 出	80,100	74,000	6,100	95,100
合 計	1,690,100	1,834,435	△ 144,335	1,855,100

前 年 度 繰 越 総 額	3,848,577
繰 越 金	20,593
次 年 度 繰 越 総 額	3,869,170

三稜会(一般会計) 貸借対照表

平成29年3月31日現在

科 目	金 額
I. 資産の部	
普通預金	
普通預金 三菱東京UFJ銀行 津島支店	3,869,170

(円)

愛知県立津島高等学校三稜会（同窓会）規約の変更について

●役員の定年に関する変更案

（役員の任期）

第13条 役員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

Ⅱ 役員の定年は75歳に達した年度末までとする。ただし、相談役及び特別顧問・顧問は、その限りではない。

Ⅲ 役員に欠員を生じた場合は、理事会において選任するものとし、その任期は前任者の残任期間とする。

Ⅳ 任期の満了によって退任する役員は、後任の役員が就任するまでの間引き続きその職務を行う。

●改正前

（役員の任期）

第13条 役員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

（役員の補充）

役員に欠員を生じた場合は、理事会において選任するものとし、その任期は前任者の残任期間とする。

任期の満了によって退任する役員は、後任の役員が就任するまでの間引き続きその職務を行う。

（平成29年9月24日改正予定）

平成28年度 一般財団法人三稜育英会 収支決算書

自平成28年4月1日
至平成29年3月31日

収入総額 4,093,412 円
支出総額 1,116,443 円
差引残額 2,976,969 円 翌年度への繰越額

収入の部

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	29 年 度 予 算 額
110 周年記念事業余剰金	0	0	0	0
三稜会祝賀会からの寄付金	700,000	716,177	16,177	700,000
三稜文庫充実費募金	100,000	78,268	△ 21,732	100,000
松の木保全対策費募金	100,000	88,160	△ 11,840	100,000
周年記念事業積立金からの寄付金	0	0	0	0
三稜懸賞論文後援者からの寄付金	900,000	800,000	△ 100,000	800,000
稲葉真弓コーナー寄付金	0	593,373	593,373	600,000
繰越金より	1,798,500	1,798,500	0	1,998,500
その他の収入	1,500	18,934	17,434	1,500
合 計	3,600,000	4,093,412	493,412	4,300,000

支出の部

三稜会総会準備金	0	0	0	500,000
三稜文庫充実費	100,000	0	78,268	100,000
松の木保全対策費	100,000	0	88,160	100,000
三稜懸賞論文	1,200,000	546,843	653,157	800,000
三稜賞	100,000	39,408	60,592	100,000
学校クラブ活動に対する補助	1,000,000	236,467	763,533	1,000,000
学校設備等の改善援助金	1,000,000	25,920	974,080	1,000,000
稲葉真弓コーナー	0	0	593,373	600,000
雑費 事務費（机・椅子）	0	131,684	△ 131,684	0
その他の支出	100,000	136,121	△ 36,121	100,000
合 計	3,600,000	1,116,443	3,043,358	4,300,000

前年度繰越総額	17,678,579
繰入金	△ 1,798,500
繰越金	2,976,969
次年度繰越総額	18,857,048

	前 年	繰越金	本 年
松の木保全対策費	1,718,029	88,160	1,806,189
三稜文庫充実費	381,087	78,268	459,355
稲葉真弓コーナー	1,637,873	593,373	2,231,246

（円）

一般財団法人三稜育英会 貸借対照表

平成29年3月31日現在

科 目	金 額
I. 資産の部	
普通預金	
普通預金 三菱東京UFJ銀行 津島支店	18,857,048

恩師のたより

資格のおかげで元気に 後期高齢者生活

一組担任

河合 利昌 先生



この四月に七十五歳になり、後期高齢者に仲間入り。四十回生の卒業とともに六年間の津

島高校での生活が終了。一年目は二年の副担任と進路指導部・就職担当とソフトテニス男子の顧問。五年間は女子の顧問と進路指導と担任に全力投球。二、四年目は三年連続で三年の担任。五年目は一年の担任で授業は自分のクラスだけで、残りは三年の授業。最後の六年目が四十回生の理系の一組の担任。

部活動ではインターハイに男女各二回、県総体女子団体では三位二回、県新人戦準優勝一回、県選抜室内大会（県新人戦上位八校）三年連続三位が三回と強豪私学に對抗。その後高体連よりソフトテニスの指導員の資格取得を要請。四十五歳で資格取得。

津島高校から転勤後の津島北高校ではクラス担任を一度も経験することなく定年。津島での体験と指導員資格のおかげで定年十五年目の現在も非常勤。海翔高校に週二日（今年で十一年目）・一宮興道高校で二日（四年目）合計十四時間。興道高では顧問として毎日指導中。後期高齢者の自覚はないが、元気で楽しい時間を過ごせているのはこれまで出会った生徒諸君の頑張りのおかげ。感謝、感謝。ありがとうございます。

迎える桜から 見返りの桜まで

二組担任

宮崎 鏡次 先生



早いもので、四十回生を送り出したから三十年になります。新任で津島高校に赴任してから三度目の卒業生になります。遠い昔のようであり

ますが、日々全力で過ごした職場でした。当時を思い返してみると、個々の個性を大事にして、自ら考えて行動するという気風に溢れていた学校・生徒だったと思います。今から思うと、もどかしい所もあったけれど、それが伝統というのかと振り返ってみて気づくこの頃です。職員もその雰囲気を感じていたので、感じました。社会に出てからも成長している土台となったのでは、と考えます。さて私事ですが、今年で再任用期間も最後の年を迎え、来年はどうしようかと思案中です。生徒の顔を見ながら、数学の面白さを「押し売り」している自分を感じ、教員の魅力にみせられる自分と、もういいかなと思う自分があり、一年かけて結論を出そうと思っています。三月の終わりに頃、天王川公園に大の散歩に訪れたとき、満開の桜を見上げながらふと、高校前の「桜ドーム」を思い出しました。初出勤のとき見上げ、最後の下校のとき振り返った桜と重なり、確かに教員生活を駆け抜けたという思いで、懐かしさがこみあげてきました。「若き日はかえらぬものを、我らいざ明るく生きん

近況

三組担任

眞弓 和久 先生

卒業後三十年、四十回生の皆さん、お元気でお過ごしのことと思います。まさに「光陰関守なし」の譬え通り、瞬く間に月日が過ぎ去った感があります。

私は二〇〇六年に早期退職をして、中国「雲南大学」に語学留学、その後二〇〇八年から「武漢科学技術大学」、「紹興文理学院大学」、「遼寧師範大学」と中国の三大学で教鞭を執ってきました。どの大学の学生も真面目で明るく、落ち着いた楽しい授業時間を過ごすことができました。「あの頃の津島高校もこんな風だったなあ」と何千キロも離れた異郷の地で懐かしく思い出したりしていました。

二〇一五年に帰国、家庭菜園を始め三〇〇坪を鋤一本で耕しています。週二日乗用馬の世話のアルバイトに行き、そこで手に入れた堆肥を菜園に入れていきます。美味しい野菜が採れるようになりました。また荒れ果てた里山を整備して、子供達が安心して遊べるようにする作業にも参加しています。これらの合間に、英虞湾に係留したクルーザーの帆走練習とテニス、中国苗等々。己の無力無知を実感しながら毎日が鍛錬と学びの日々です。

ガンジの残した言葉「明日死ぬかのように生きよ！永遠に生きるかのように学べ！」のような生き方ができればと思っています。



近況報告

四組担任

小川 隆司 先生



四十回生のみなさん、幹事学年としてのご尽力に感謝申し上げます。

さて、皆さんが卒業され、三十年の年月が経ちました。私にとって、津島高校で三回目の卒業生を送り出した学年であり、二回目の女子クラスの担任となった年でした。明るく、学校行事での積極的な取り組み等、結束力の強いクラスであったことが思い出されます。三十八年間の教員生活を終えた際に、クラス会を開催し祝っていた、クラス会を忘れ得ぬ思い出です。また、バスケットボール部の顧問では、選手の頑張りによって常時県大会へ出場でき、指導者としての自信にも繋がりました。

私は、今年三月に再任用教員の任務を終え、四月から杏和高校での非常勤講師として、また、愛西市立田南部子育て支援センターでの指導員として、土日曜日は津島北高校のバスケットボール部活動専門指導員として、忙しくも充実した日々を過ごしています。特に支援センターでは、日頃高校生と向かい合っている私には新鮮な経験ばかりです。何よりも健康で仕事ができることに感謝です。これからもこれまでの「ご縁」と新たな「出会い」を大切に、毎日を過ごしていきたいと思っています。卒業生の皆さんのご多幸を心から願っています。

伝統校の風格

五組担任

富田 栄子 先生



先日、久しぶりに津島高校まで車を走らせました。三十代と四十代の十二年間、通い続けた道をなつかしく辿ってみました。稲沢市に住む私にとっては三十五分のドライブです。四十回生のみなさんの卒業の年に津島高校を転出してから三十年。予測どおり、途中の静かな田園風景はにぎやかに変化してしまいました。しかし、津島高校は広大な敷地や数多くの堂々たる樹木、歴史を誇る正門等、昔の姿そのもので、伝統校の重厚な風格を強く感じました。この周辺をいつも散歩できたら、きっと最高の気分を味わえるのにとうらやましく思いました。

思い返してみると、三年五組のみなさんと、三年は本当に楽しい日々でした。特にHRの時間は教室前の花壇にサルビアの花を植えたり、さつまいもを育てて調理したりと、勉強から解放された貴重な時間でした。さて、私は定年退職してからあちこち旅行を楽しみました。テロなどの不安がない時代に旅行できたことはとても幸せでした。そして今は、草花を愛でてゆったりと過ごしています。夫婦と十七歳の二匹の猫が集まると、「老人会の開催」と思わず笑ってしまうような日々です。

未体験ゾーンへ

六組担任

村瀬

五郎

先生



第四十回生の皆様におかれましては、社会の中堅として活躍のこととお慶び申し上げます。共に学び、楽しく過ごせた三年間を今も懐かしく思い出しています。津島高校を始め歴任した勤務校の先生方や卒業生の情報もちらほら届き、大変有難く思っています。

退職後の暮らしと言えば、現役の頃ご無沙汰していた地元町内会や老人会、また子供会の各種イベントや奉仕活動に関わり、楽しく過ごしておりました。少しはお返しになっていくかなと言ったところですが、家庭内では子供たちが巣立ちした後始末を延々と続けている有様で、お恥ずかしい次第。小生、老人ロードをゆるゆると歩き続け、先日傘寿（八十歳）の標識を通過しました。（目標はどこか）と自問しても明確な答が出ませんが、まずは体調を整え、健全な判断力を維持していきたいと考えています。

老人イコール廃人と片付けられがちな世の中ではありますが、まだまだいけると自負しています。まとわりつくサタンの誘惑を振り払い、正道を進みたいですね。次々湧き出てくる好奇心・探求心を満足させられるよう努力しよう。時には「花鳥風月」も楽しみたい等々：欲張り過ぎでしょうか。

嗚呼！青春（V）

七組担任

寺田

志郎

先生

今年の幹事学年の第四十回生の皆さんが入学された昭和六十年は、私の教員生活十三年目の年で、学年主任を仰せつかり、教員としての青春時代を謳歌していた自分の意識を変えていかねばならないと思った時期でありました。

現在の高等学校の入学選抜は、平成元年度から始まった「複合入試制度」で、公立高校もA、B二つのグループから一校ずつ受験することができ、入学者は必ずしも第一志望の人ばかりではありませんが、当時は単独の選抜で、中学校の学習成績の記録（いわゆる内申点）も極めて高い生徒がたいへん多く入学され、かなりのプレッシャーを感じたのを思い出しています。

学校全体も歴史ある伝統校らしい落ち着いた雰囲気の中で、私たち教員も生徒を子ども扱いせず、一人の人格ある大人として対応して、学校生活が営まれていたように思っています。生徒の皆さんも、信頼に応えて、明るく意欲的に、勉学、運動などに取り組む、それぞれ成果を挙げ意義深く納得のいく高校生活を送られたのではないのでしょうか。そのような学校に永年わたり（二十一年間）勤務できましてことを嬉しく、また、誇りに思っています。



私は、この三月に、公立高校退職後七年間勤めた私立高校をも退き、公・私立合わせて四十四年間の教員生活に無事ピリオド

ドを打つことができ、のんびりと過ごしています。結びに、卒業生の皆さんのますますのご活躍と、津島高等学校のご発展を心からお祈り申し上げます。

アカシアの薫り漂う学校

八組担任

小柳

保証

先生

書ききれない程の思い出があります。①三年生の授業準備②芋入り豚汁を大鍋で作り、船頭平間門で暗くなるまで遊んだクラス遠足③保護者会をより有意義にと、親・生徒・担任の三者が参加するグループ懇談会④原発が学年統一L Tのテーマになり、資料を作成し賛成反対に分れて議論したこと、などなど。



おおらかで伸び伸びとした校風は、長い歴史と充実した職員会議によるものでしょう。論客が何人もおられて、侃々諤々の議論が交わされ、私は賛成意見に傾き、直後の反対意見にも気持ち揺れて迷い、挙手せず曖昧にしておこうかと情けない心境になったこともありました。教頭先生も手を挙げて発言され、様々な立場からの意見が自由に述べられ、一強の人が会議を支配するなどとは無縁の民主的な学校運営に、仕事への意欲をかきたてられたものです。志高く個性豊かな同僚、学習だけでなく放課後の自主活動に励む生徒諸君に、日々気持ちが高揚する八年間で、

二〇〇三年春、教員生活の最後、一年担任として挨拶をしたのは、

米国がイラク空爆を始めた日でした。無性に悲しく口ごもる私を、遙か年下の生徒たちがききとんとした目で見ていました。教員になるとき胸に刻みこんだ憲法と教育の理念が、大きく揺れている今、長く生きてしまったなあと感慨にふける毎日です。

あれから三十年

九組担任

佐藤

昌功

先生



第四十回生のみなさん、卒業からすでに、三十年も経ってしまつたのです。まさに、「光陰矢の如し」です。皆さんも今や人生の円熟期を迎えている頃でしょう。初めて担任を任された若輩者もついに、本年定年を迎えることになりました。経験不足の青二才の指導によくついてきてくれたと感謝すると同時に、今の自分なら、全く別の指導方法をしたであろうと、回顧の念と同時に、遺憾の念で一杯です。

当時は、無我夢中であるのと同じに、楽しくて仕方ない毎日でした。学習指導だけでなく、部活動、クラス活動、生徒会活動など、楽しい思い出が脳裏を駆け巡ります。新任から八年間在籍しましたが、今思えば「青春の延長線上」にいたといっても過言ではありません。未だに、皆さんとのいろいろな思い出は尽きません。

さて、私のキャリアは間もなく幕を閉じます。振り返ってみれば、教員の原点は、津島高校だったと今でも確信しています。自分自身の後輩を指導できる喜びをかみしめつつ、いろいろな指導方法を学

ばせてもらいました。ここまで私を成長させてくれた第四十回生の皆さんに心より感謝すると同時に、皆さんのご多幸を祈念しております。

津島高校

十組担任

伊藤

聡志

先生



津島高校には、昭和五十九年から平成十年まで勤務しました。その中で最も印象に残っているのは、やはり四十回生です。もう三十年も経つたのです。卒業アルバムには、木曾川に飛び込む生徒らの写真が載っています。あれは、まだまだ水の冷たい六月の頃、L Tの時間、シジミくらく取れるかなと思つて行つたのですが、パンツ一丁であの笑顔。全く呆れますが、あのパワーには感服しました。クラス運営は空回り、授業は脱線、部活動は音痴なのに音楽部だったりと、本当に生徒に助けられてやっていたんだと、今は思います。

春には、校庭の好きなところを耕し、サツマイモの苗を植え、秋には、落ち葉を集めて焼きいもをすることもありした。三中備品と書いてある海亀の標本があったり、旧図書館を壊した時、ヒトラーの演説する記事のある新聞が出てきたことなど、歴史を感じさせる物がいっぱいありました。また、自然も豊かで、上のグラウンドのクスノキに十センチ近くもある毛虫が大発生したり、三樓館裏の切り株にタマムシが繁殖したり、旧講堂裏に漢方薬にもなるマンネンタケが生えていた事もありませんでした。この良き伝統と自然環境を守つて欲しいと願っています。

母校の近況報告

今年の3月、本校の正門門柱に登る有形文化財に登録されました。その一環として掲げている、滞在型観光とタイアップして校門、旧講堂、弓道場等を含めた観光ルートを策定中であり、また国際理解コースの生徒を対象に、市のガイドボランティアの方に地域の歴史・文化・産業についてお話をしていたく機会を設けました。生徒達にはそれらの知識を通して、天王祭り等で津島市を訪れる外国人対象に英語での発表や案内をさせることを目指しています。また、その延長として地元小中学校へ出向いての出前授業も計画されています。今年度はこのような津島市と連携した事業によって英語教育や国際理解教育の充実を図っています。

一方、ICT機器を用いた授業研究を推進して、今年度はタブレット端末を45台導入しました。それらを用いて、2年次の授業での活用をはじめ、普段の夏休みの研修先である、オンラインのヒルクレストの高校生と、スカイプによるリアル

タイムでの交流を行います。さらに、国際交流の幅を広げようと、希望者を募り8月に東南アジア・タイでの海外研修を行なう新たな試みを実施します。

今年も、春の総体予選では多くの部活動が県大会出場を決めており、特に女子の活躍がめざましく、尾張地区で総合第2位でした。一方男子も負けじと劣らず総合第3位でした。顕著な成果として、陸上部女子から吉田美生さんが400mハードルと1000mハードルで、近藤七海さんが400mでインターハイ出場を決めております。また木村野乃花さんが全国高校将棋選手権大会の愛知大会出場を決めて昨年に続いて全日本大会で優勝しております。彼女たちの活躍を期待するとともに応援よろしくお願いします。

ホームページのご案内

三稜会では、創立110周年記念事業の一環として、諸先輩のご尽力をいただきながらホームページを立ち上げました。多くの卒業生の方々のお陰で、様々な情報を発信することができるようになりました。

ますます情報化が進み、浸透して行く今日、当会においても情報の発信をより広く、スピーディーに行うために、ホームページを積極的に利用活用したいと考えております。その一環として、まずはリニューアルを行いました。

今後、皆様からのアイデアをいただきながら、新しい時代にマッチした変化を目指していきたいと考えております。

何卒、ご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

<http://www.sanryokai.com>

卒業生の活動、活躍などお知らせください。
またご意見などいただければ幸いです。

info@sanryokai.com

ホームページ担当 北角浩一（32回生）

▼最近4年間卒業生動向

		平成29年	平成28年	平成27年	平成26年
卒業数	女	350	171	318	144
	男	179	174	156	159
大学進学	女	305	141	288	131
	男	164	157	295	139
短大進学	女	7	7	1	1
	男	0	0	9	8
専修・専門学校	女	24	20	7	14
	男	4	2	16	2
文科省管外大学	女	1	0	0	0
	男	1	0	2	0
浪人	女	12	2	5	9
	男	10	14	23	8
就職	女	0	0	0	0
	男	0	1	2	2
家事・その他	女	1	0	0	4
	男	0	0	5	1

▼平成29年 大学合格者状況

	大学名	平29	大学名	平29	大学名	平29
国	東京外国語大	1	島根県立大	1	中 学 大	31(1)
	宇 都 宮 大	1	宮崎県立大	1	至 学 館 大	1
	富 山 大	2(1)	国 公 立 大 計	115(11)	中 部 大	76(3)
	福 井 大	9	早 稲 田 大	2	東 海 学 園 大	17
	静 岡 大	2	青 山 学 院 大	2	同 朋 大	1
	岐 阜 大	16(1)	芝 浦 工 大	1(1)	名 学 院 大	12
	名 古 屋 大	7(1)	駒 澤 大	1	名 外 語 大	33(3)
	愛 知 教 育 大	9(2)	東 京 理 科 大	2(2)	名 女 大	19
	名 古 屋 工 業 大	6	国際基督教大	1	名 文 理 大	7
	三 重 大	20(1)	日本体育大	1	名 芸 大	5
公	滋 賀 大	1	亜 細 亜 大	1	名 造 形 大	1
	奈 良 教 育 大	1	日 本 大	9(4)	南 山 大	114(7)
	奈 良 女 子 大	1	明 治 大	2	日 福 大	68(5)
	岡 山 大	1	中 央 大	2	人 間 環 境 大	1
	広 島 大	2(1)	東 海 大	1	日 赤 豊 田 大	3
	島 根 大	1	神 奈 川 大	2(2)	一 宮 研 伸 大	5
	山 口 大	1(1)	山 梨 学 院 大	1	藤 田 保 健 大	8
	徳 島 大	1	金 沢 工 業 大	1	名 城 大	143(9)
	琉 球 大	1(1)	岐阜聖徳学園大	28(8)	皇 學 館 大	2
	横 浜 市 立 大	1	岐阜女子大	3	鈴 鹿 医 療 大	10
大	高 崎 経 済 大	2	東 海 学 院 大	1	四 日 市 看 護 大	1
	富 山 県 立 大	4	岐阜医療科大	1	同 志 社 大	14(4)
	石 川 県 立 大	1	愛 知 大	170(2)	立 命 館 大	17(1)
	静 岡 県 立 大	1	愛 知 医 科 大	1	龍 谷 大	4
	金 沢 美 術 工 芸 大	1(1)	愛 知 工 業 大	87(3)	関 西 学 院 大	2
	岐 阜 県 立 大	1	愛 知 淑 徳 大	158(2)	近 畿 大	14
	愛 知 県 立 大	9	愛 知 学 院 大	55	そ の 他	6(1)
	名 古 屋 市 立 大	3	愛 知 工 科 大	2	私 立 大 計	1255(60)
	三 重 県 立 大	2	愛 知 東 邦 大	6	岐 阜 市 立 女 短	4
	滋 賀 県 立 大	1	愛 知 み ず ほ 大	1	大 垣 女 子 短	1
学	大 阪 府 立 大	1	桜 花 学 園 大	3	愛 知 学 院 短	1
	奈 良 県 立 大	1	金 城 学 院 大	21	名 古 屋 短	10
	岡 山 県 立 大	1	修 文 大	3	名 女 大 短	6
	新 見 公 立 大	1(1)	相 山 女 学 園 大	40	名 柳 城 短	2
			大 同 大	25	短 大 計	24

つれづれ編集後記

▽間もなく稲葉真弓さんの三度目の命日八月三十日がやってくる。▽彼女の名をいただいた三稜懸賞論文稲葉真弓賞も今年で七回目となる。▽毎年テーマを決め、若い感性と理性に裏付けられた論述力で書かれた優秀な作品が、地元尾張地区の高校から数多く集まる。▽母校のためにと彼女の創作ノート他数々の遺品を寄贈してくださったご遺族の皆様。▽稲葉真弓コーナーに寄付してくださった同窓生の皆様。▽何よりも人生最後の時期に母校のためにご尽力くださった稲葉さんご本人のためにも、そのご遺志を尊重し、目指すところを受け継いでいきたい。▽彼女がそうであったように、津島高校にはその人の個性を生かし開花させる懐の大きさがある。▽勉強やスポーツにとどまらず、放課後の図書室で書物を読み耽ったり、生徒会や文化部の活動で頭角を現す生徒もいる。▽最近では国際理解コースの活躍や地元貢献するボランティア活動にも力を注いでいる。▽「知仁勇」の校訓に基づき総合的な人間力を培い、混乱の時代を切り拓く「生きる力」を育てる。▽先人達が長い時代に築いた教養は、時代が変わっても色あせることなく、次の世代に受け継がれていく。▽そのための環境作りには心両面から同窓生の皆様のお力添えをいただきたい。▽若人を育み、優秀な人材を輩出できる場を保持することは、郷土を守っていく上で最も肝要である。▽今後とも母校津島高校をよりよくお願いしたい。

正誤表

7頁 平成28年度一般財団法人三稜育英会 収支決算書 支出の部

	差異		差異
三 稜 会 総 会 準 備 金	0		0
三 稜 会 文 庫 充 実 費	78,268		100,000
松 の 木 保 全 対 策 費	88,160		100,000
三 稜 会 懸 賞 論 文	653,157		653,157
三 稜 賞	60,592	→	60,592
学校クラブに活動に対する補助	763,533		763,533
学 校 設 備 等 の 改 善 援 助 金	974,080		974,080
稲 葉 真 弓 コ ー ナ ー	593,373		0
雑 費 事 務 費 （ 机 ・ 椅 子 ）	△ 131,684		△ 131,684
そ の 他 支 出	△ 36,121		△ 36,121
合 計	3,043,358		2,483,557

去る平成29年9月24日に津島高等学校で行われた三稜会総会において訂正した内容です。